

平成 27 年度第 3 回浦安市文化財審議会議事録（議事要旨）

- 1 **開催日時** 平成 27 年 11 月 22 日（水） 午前 10 時～12 時
- 2 **開催場所** 郷土博物館 視聴覚室
- 3 **出席者**
（委員）平野敏則委員長、杉山徳生委員、丸山光子委員、丸山純委員、吉田敦委員、大塚三枝子委員、菊池眞太郎委員
（事務局）永井生涯学習部参事、飯塚館長、島村、尾上、井口、林（記）
（傍聴人）なし

4 議 事

- (1) 「ふるさと浦安作品展」の開催結果報告
- (2) 浦安市郷土博物館の活性化について(検討)
- (3) 企画展「1957～1966 東葛地区（浦安・流山・松戸） 児童木版画作品展」の視察及び意見聴取
- (4) 報告事項
 - ・浦安お洒落保存会 「千葉県教育功労賞」受賞
 - ・旧宇田川家住宅等屋根工事について

5 会議経過

会議に先立ち、平野委員長、永井生涯学習部参事があいさつを行った。

進行上の都合により、議事の順番を入れ替え、(2) 「浦安市郷土博物館の活性化について(検討)」を行った後、(1) 「ふるさと浦安作品展」の開催結果報告、(4) 報告事項を先に説明し、最後に(3) 企画展の視察を行った。

(2) 浦安市郷土博物館の活性化について(検討)

教育委員会へ提案する報告書(案)について事務局から説明したのち、内容の検討を行った。主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) この資料をどう使うのか、予定を先に教えていただきたい。

(事務局) 博物館の活性化について審議いただくのは、今回で4回目となる。審議いただいたことが反映された資料になっているかどうかを本日十分に見ていただき、追加や訂正を入れた上で教育委員会へ報告したいと考えている。今日の審議内容を踏まえ、次回の会議でとりまとめた。

(委員) 次回の会議でも、審議できると考えてよいのか？

(事務局) 本日の会議で「この内容でよい」ということになり、あとは冒頭に委員長の言葉とまとめ文を加え教育委員会に提出できるということになるのであれば、それ

でもかまわない。逆に「足りないところがある」とか、「もう少し議論した方がよい」ということになるのであれば、次回の会議でも審議いただきたい。

これまでの会議で出たご意見について、すぐに事業化できるものに対しては来年度予算を確保しておこうということを経営で検討した上、すでに予算要求を行っている。その点においては、もう少し審議を深めてから資料を完成させるということであっても、時間的なデメリットはないので、十分議論いただければと考えている。

(委員) いくら完璧な作文(資料)を掲げていたとしても、実際に何もできないのであれば意味がないのだから、「この資料は、教育委員会に報告するための資料である」という目的をハッキリさせなければならない。「博物館をよりよいものにするためにどうしたらよいか?」ということは、常日ごろ考えていかなければならないことであり、審議会の中でも何度でも取り上げなければならない問題であるのだから、今日の会議も「教育委員会に出すための資料をつくるための審議である」ということを初めにハッキリさせて進める必要がある。もちろん、その議論のなかで大事な問題が出てきたのであれば、それは次に検討していけばいいことである。とにかく、今日はこの資料を完成させるために審議するというので、いかがでしょうか?

(事務局) 皆さんにこれまでいただいた意見をまとめているので、ある程度は集約されていると思うが、「少しニュアンスが違う」とか、「もっとここが重要である」というようなことがあれば、追加・訂正していきたい。

(委員) この言い方では、教育委員の方や一般の方がわからないのではないかと思うところがまだ見受けられるので、そこを指摘しておきたい。

まず入館者数の表についてであるが、「入館者実数」というものを出しているが、これは総入館者数から「市民まつり」と「植木まつり」を開催した日の入館者数を引いた数ということなのか?

(事務局) はい。

(委員) 引きすぎではないか? 確かにその日トイレを使うためだけに入館した人もいるかもしれないが、そのついでに館内を見学した人もいるはずなのだから、その日の入館者数全部を引く必要はないのではないか?

(事務局) 「博物館の入館者数が多いのは、市民まつりや植木まつりでトイレに来る客がカウントされているからだろう」というようなことを言われることが多かった。そういうことではないということを証明するために、その日の入館者を引いた数を「入館者実数」として出したものである。

(委員) それならば、市民まつりや植木まつりの開催日の入館者数を参考として挙げておくだけでよい。「入館者実数」という表現はおかしいので、そこは削除した方がよい。

(委員) 「Uモニを利用したアンケート結果」について書かれたところだが、Uモニ結果を分析しただけの文章になっており、この分析を踏まえた上でこうだという結論が書かれていない。

(事務局) ここは、書き直したい。

(委員) 「(2) テーマ展示室のリニューアルを見据えた企画展の充実」のところであるが、方策案として書かれている項目が、近現代をテーマにしたことしか書かれていないことが気になる。確かにこれまで漏れていたテーマであるということはよくわかるが、新しい項目を入れることだけがリニューアルではない。今の展示をよりわかりやすい展示にするためのリニューアルでもあるはずである。

(委員) 今の話に関わるのだが、「(4) 屋外展示室の有効活用」のところ、「これまでは『漁師町時代の浦安の町』という視点から紹介していたが、・・・」という文章がある。この「が」という書き方が、漁師町時代のことを低くみているよう捉えられてしまうのではないかと心配である。これからどう変わろうと、浦安は漁師町であったのだから、やはり「漁師町であった」ということを主に考えてほしい。漁師町ということをはずしてしまったら、浦安ではなくなってしまう。

(委員) よくあるのが、民家でもその地域の歴史ではないようなものを回顧趣味的に入れてしまって展示しているところがある。ここだと、「昭和の日本の庶民の暮らし」というテーマに変えてしまって、浦安のものではない「昭和のモノ」を買い集めて入れるというようなことがないようにしてほしい。そうではなくて、「浦安という地域の固有の文化」が、昭和の日本庶民の暮らしを物語っている、ということではなければならない。つまり、その地域固有の文化が普遍性を持つということ。だからこそ、むしろその固有の文化をしっかりと発信するということが必要なのである。この文章だけだと、「昭和のまちにしてしまおう」というように捉えられてしまう恐れもあるので、表現を少し直した方がよい。

(委員) 「浦安はこれだ」というメインが揺らいでしまわないようにすることが大切である。

(委員) 「(3) 展示を十分に理解してもらうための方策の充実」について、先ほどの事務局の説明は「前もってゲストの特性をつかんだ上で、それに応じた説明の方法を考える」という趣旨だったように思うが、そういうことか？

(事務局) そうです。

(委員) 具体的には、どのようなことを考えているのか？この方策案に書いてある「ワークシートの作成」とか、「展示解説ボランティアの育成」とか、これではカバーできないようなことを言っているような気がするが？

(事務局) 「ワークシート」のことなどを説明しようとしてこういう文章になったということであり、他のことを含ませているわけではない。

他館の企画展などへ行って感じることもであるが、理解しようと思って真剣に資料を見たり解説パネル文を読んだりすると、非常に疲れを感じる。疲れの方が先立ってしまい、面白さが半減してしまうという経験をする。けれども、質の良いワークシートを使ったり、上手な展示解説者の話を聞くと、楽しく展示を見ることができる。解説する方の話術が上手・下手ということももちろんあるのだが、来場者の関心がありそうなポイントを問いとして投げかけてあげると、お客さん自身が「あれ、なんだろう？」といったん自分で考えることになるので、自然と「答えが知りたい」という気持ちにさせることができる。そのあとに「こういうことなんですよ」と説明してあげると、記憶も定着しやすく学習効果が高まる。ワークシートも同じである。クイズ問題のようなシートを作っておくと、そのクイズの回答を埋めたいがために、真剣に展示を見るようになる。見るべきポイントが最初からハッキリしているので、自分なりの学習ペースで楽しく展示を見ることができる。そういう展示のつくりをしたいと日ごろ思っているので、ここに書き入れた。

(委員) 方法的な工夫をもっとしたいということか？

(事務局) そうです。

(委員) これまで、小学生などを含めお客さんを案内した経験はとても重要だと思うので、その中から反省も含めて、この館独自のやり方を考えていってほしい。

いずれにせよ、最初から完璧なものができるわけがない。試行錯誤を繰り返しながら、どんどんよくしていこうとする姿勢が大切である。展示解説をする人の研修をしていくことも大切で、それにかかる予算を確保することも必要かもしれない。

(委員) 「IV 組織体制・学芸員に関する課題」のところで、博物館は職種が違う職員で構成されているので大変だという話があった。現場の苦労ということもあるのだと思うが、それは博物館に限ったことではない。いろいろな方が混ざっていることで、むしろ総合力が高まるということが一番望ましい形だと思う。

(委員) この部分の記述は、開館して十年以上も経っているのに、まだこんなことを言っているのか、という印象を受ける。逆に「学芸員」という意識をあまり持たない方がいいのではないかと思う。必要だとは思いますが、「博物館のなかの職員なんだ」という気持ちで改革していかないと学芸員もいけないのではないか。この文章を読むと、学芸員と教員と行政職員と溝があるのか？というように思われてしまうのではないか。教員が学芸員と同じように、企画展を担当してもいいのだから。気持ちは分からなくもないが、こんなことをあえて書く必要があるのか？

(事務局) 当館の学芸員の場合は、他館とは逆の課題がある。開館以来、学芸員が学校授業において教員の補助をしたり、ボランティア育成業務をしたり、船の手入れや管理に関する業務を行ったりしており、学芸員と他の職種の職員との仕事の役割分担があいまいになってしまっている状況である。資料の収集・整理・保存や、

調査研究など、学芸員が自分の専門を活かして行わなければならない業務の方がおろそかになってしまっていることこそ、問題であるといえる。

(委員) 「違う職種の職員がそれぞれの職務を果たし、さらによい博物館にしていくため、総合力を発揮できるようにする」という言い方にするとよいのではないか。

(委員) 今日は学芸員全員が出席している。他の学芸員は、この資料を読んでどのよう
に感じられているのか、意見を伺いたい。

(事務局) 今、事務局から説明したとおりである。(学芸員が博学連携やボランティアに
関する業務に専念しすぎており、資料の整理や調査研究の方がおろそかになって
いることが一番の課題と考えている)。

(委員) 「(5) 関連する施設や機関とのコラボレーション」のところで、「図書館・公
民館・大学などの教育施設」とあり、過去の事例も記入されているが、少し硬い
印象を受ける。もっと遊び心をもって、民間の力を活用した書き方にするといい
のではないか。

以前、県立美術館で銚子出身の作家の展覧会をやったときに、「マグロの解体
ショー」を開催したことがある。「美術館でマグロの解体なんて、何をやっている
のか?」と思ったりもしたが、地元の人がこれを見に来る動機づけになったり
して、PR としては大変効果があった。一過性のイベントという側面はあるが、
民間の活力を導入すれば、そういう意外性を持たせるようなことができる。

別添の図には、魚市場とか、釣り船屋とかがしっかり入っていて良いと思うの
で、表現の工夫をもう少し検討すればいいと思う。

(委員) 「(4) 屋外展示場の有効活用」のところに「2020 年東京オリンピック開催時
を目指し」とあるが、こういうタイムリーなことに対する意識を持つことも必要
である。今年、終戦 70 周年ということで、いろいろな博物館が自分のまちの戦
争について取り上げた企画展を開催していた。企画展テーマに、世の中のタイム
リーな事柄を入れ込んで計画することも大切なのではないか。2020 年東京オリ
ンピック開催の際に、「東京オリンピックと浦安」をテーマにした展覧会を開催
するのもいいのではないか。

(委員) 入館者のところに出てくる「Uモニ」について、どういうものなのかわかりに
くいので、説明を入れる必要があるのではないか。

(事務局) 市役所広報広聴課がインターネットを使って市制についてモニタリングするた
めの制度であるが、簡単に説明を入れるようにしたい。

(委員) 通常、来館者に対してアンケートなどはとっているのか?

(事務局) 一般の来館者用のアンケートと、団体見学利用者用のアンケートがある。一般
来館者用は、エントランスに置いてあるだけなので、さほど回収率は高くない。

団体利用については、代表者にアンケート協力をお願いすることになっている。企画展は、アンケートを別にとっている。

(委員) アンケートに寄せられた声は、改善などに活かされているのか？

(事務局) 改善しなくてはならないことは、即座に処理している。クレーム的なことよりも、お褒めの言葉が書かれていることが多い。「無料でこんなに楽しい施設なのだから、もっとPRしたほうがいいのではないか」とか、「スタッフやボランティアの方が非常に親切にしてくれた」というような記入が多い。

クレームとしては、「場所が分かりにくい」というものがときどきある。

(委員) 「(4) 屋外展示場の有効活用」についてだが、季節感のあることをやるとよいのではないか。今の季節だと、西の市とか。屋外展示場で、春夏秋冬の展示やイベントをやるといいのではないか。

(事務局) 季節ごとの展示・イベントは、現在でも努力して開催しているところである。

(事務局) もしよろしければ、今日いただいたご意見を入れて手直しし、委員の皆様には郵送で確認していただくということにして、次の会議を待たずにこの資料を完成させ、今年度中に教育委員会に提出したいと思うがよろしいか？

(委員) 事務局に訂正してもらった後、それを郵送で送っていただいて、気づいたことは個別に事務局に連絡するということで、次回の会議を待たずに完成させるということを進めよいのではないか。

(事務局) では、資料作成後、委員長と相談した上で検討し、進めていくことにしたい。

(委員) 全員了承。

(1) 「ふるさと浦安作品展」の開催結果報告

配布資料に基づき、事務局から説明した。主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 「参加数」と「出展数」の違いは？

(事務局) 自由研究の作品として学校に提出された数が「参加数」で、学校内で選りすぐって博物館へ提出されたものが「出展数」となる。点数が多いと展示しきれないため、ある程度学校で優れた作品を選んでいただいて、出品してもらっている。

(委員) 学校によって、大きい差があるのはなぜか？

(事務局) 学校によっては、「浦安」についての自由研究に重きを置いておらず、他の違うことを重視している学校もある。

(委員) 学校ごとに児童数を参加数で割るようにし、その上で平均の数を出しておく、学校側にも頑張ってもらえるようになるのではないか。

(委員) 統合された小学校もあるくらいなので、学校ごとに生徒数を分母として出しておくとうい。

(委員) 中学校それぞれの教育方針もあると思うが、特に埋立地の学校が浦安研究に力を入れてくれるとうい。それには、博物館の活動が反映すると思う。

(委員) 大学でも、地域との連携とか、他大学と競い合う・他大学と一緒に何かを行うとういようなことには、高い教育的効果があり、のちに大きな力となると言われている。博物館が学校側を炊きつけるようなことも必要だろう。

(委員) いちばん感心したのは、作品名である。なかなか凝ったタイトルをつけている。

(4) 報告事項

旧宇田川家住宅等の屋根工事とお洒落保存会「千葉県功労賞」受賞について、口頭にて説明を行った。主な質疑応答は下記のとおり。

(委員) お洒落保存会の受賞については、市が県に対して申請（推薦）して決定したものなのか？

(事務局) 市から推薦をしたものではなく、県で決定されたものである。

(5) 企画展「1957～1966 東葛地区（浦安・流山・松戸） 児童木版画作品展」の視察及び意見聴取

企画展を見学いただき、アンケート記入をお願いして、本日の会議は終了した。

■ 次回の会議

第4回浦安市文化財審議会は、2月24日（水）を予定。

以上をもって、平成27年度第4回浦安市文化財審議会は、閉会した。